



思い出深い旅の一つ北海道で収めた、有島武郎「カインの末裔」碑（三セコ町）



佐々木さんが続けるフィールドワークの旅の内容を記した大学ノート。その数は30有余にのぼる



「新発見・再発見をいつも楽しみにしています」と語る佐々木さん

学ぶ人
（1995年入会）
佐々木行さん
受講講座
「明治・大正・昭和文学の面白さ」
「東京・川・人・文学」

佐々木さんの 学びの履歴書

●受講科目（☆は中島先生の講座）

2013年 明治・大正文学の面白さ、
『日和下駄』『青年』
『東京景物詩及其他』☆

大正文学の面白さ、
『みみずのたはこと』
『桜の実の熟する時』
『黒髪』☆

文芸よもやまばなし
-シアトルとサンフランシスコ-

近代文藝の百年
-近代文学と北陸・東海-

映画の中の東京

2014年 昭和文学(戦前)の面白さ、
『美しい村』
『夜明け前・第一部』☆

東京・川・人・文学ー

昭和文学(戦後)の面白さ、
『斜陽』『狼銃』『鬮牛』
『青梅雨』ほか ☆

映画の中の東京

2015年 明治・大正・昭和文学の
面白さ ☆

東京・川・人・文学ー

文学は肉体労働でもある—— 学びを支えるバイタリテイ

予

習に裏打ちされた知識の広さと深さ、そして熱心に学ばれる姿勢には、こちらにも刺激を受けています。中島先生にそう評されるのは、入会から20年目を迎えた佐々木さんです。仕事の忙しさが一段落した50代後半、時間を有意義に使いたいと入会。幼少期より興味のあった文学を中心に、歴史や地理、芸術などの講座を受講してきました。2011年度には150単位を取得した方に贈られる紺碧賞を受賞しています。

ご本人に話を伺ってまず驚かされるのが、そのバイタリテイ。文学にゆかりのある地を巡る、フィールドワークの旅を20年以上も続けているといいます。「文学は地理や歴史、芸術といったあらゆる要素が詰まった総合的な学問。特に旅では、いつ、どこで、

誰が、何をしたのかといった、歴史や地理などの情報を補完することができず。活字からは読み取れない物語の背景や、作者が込めた思いに触れることで、作品への理解が深まります」。

しかも、現地までの主要な交通手段は青春18切符というのが佐々木さん流。主要駅に到着したら、自らの足で徹底的に歩き回るのだとか。「文学とは肉体労働でもあると思うんですよ。にっこり笑ってそう語る佐々木さんの言葉は、ユニークながら強い説得力が含まれています。「また、一見接点のない人物やテーマが思わぬところでつながっていることもあります。そういう新発見は旅、そして学びの醍醐味です」と佐々木さんは語ります。

文学を多角的に捉えようとする

佐々木さんの学びに、深みを与えているのが中島先生の授業です。かれこれ10年以上も先生の講座を受講しており、「文学を立体的に捉える先生の姿勢に共感しています。講座で取り上げるテーマの補足情報をまとめた資料を用意してくださるのも、いいですね」と語ります。

エクステンションセンターに通って20年。多くのことを吸収されてきた佐々木さんですが、飽くなき探究心は変わらず健在です。講座は未知のことでなく、既知のことでも抜け落ちていた情報や、別の見方があることを知るきっかけになります。そんな新発見・再発見こそ学びの醍醐味。可能な限り通い続けるつもりです。佐々木さんは、その言葉を結びました。